令和６年（2024 年）3 月 22 日　公表
令和５年版　山口県瀬戸内海側重要魚種の資源評価

ヒラメ（瀬戸内海系群）

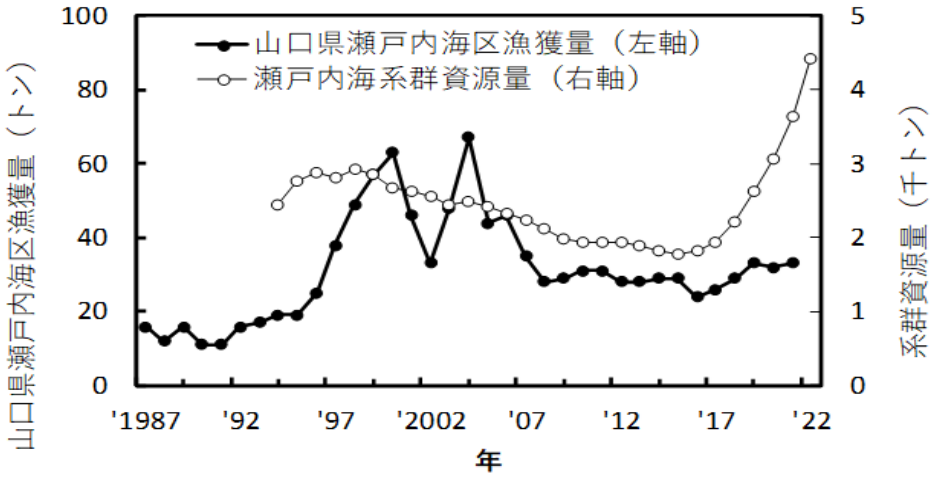

図　山口県瀬戸内海区ヒラメ漁獲量（農林水産省統計情報水産業調査 HP）及び
瀬戸内海系群ヒラメ資源量（(国)水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】ヒラメは主に小型底びき網（以下、小底）、刺網、定置網、釣漁業（延縄を含む）で漁獲される。漁法別漁獲量では小底が中心であり、2022 年における割合は小底 55%、刺網 24%、定置網 14%、釣漁業 6%であった。秋には未成魚、冬から春にかけては成魚が漁獲の主体となる。
【漁獲量】山口県瀬戸内海の漁獲量は、1987～1995 年には 20 トン未満で推移していたが、1996～2007 年には増減を繰り返しながら 2004 年の最高 67 トンとなった。2008 年以降は 30 トン前後の横ばいで推移している。2021 年は 33 トン（概数値）であった。
【資源状態】系群全体の資源量は、1998 年に 2,900 トンに達した後減少し、2015 年に 1,800 トンとなったがその後は増加し、2022 年は 4,400 トンとなった。親魚量は 2000 年に 1,600 トンに達した後やや減少し、2003 年以降は 1,200～1,300 トン程度で推移していたが、2016 年以降は大きく増加する傾向にある。2022 年の親魚量（SB）は 3,100 トンと推定され、昨年に引き続き 1994 年以降の最大値を更新し、最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量（SBmsy）を上回った。VPA による解析からは、当系群に対する漁獲圧は長期的に低下傾向にあり、近年の 0 才魚資源尾数には不確実性が高いものの、特に若齢魚に対する漁獲圧は低い水準にあると考えられる。漁獲圧は 2020 年以降継続して MSY を実現する漁獲圧（Fmsy）を下回っており、本系群においては、これらの低い漁獲圧と安定した加入により近年の資源量の着実な増加がもたらされていると推察される。

ヒラメ瀬戸内海系群の資源評価関連指標値等（単位：トン）

2022 年 漁獲量	最大持続生 産量（MSY）	2022 年 親魚量	目標管理 基準値(案)	限界管理 基準値(案)	禁漁水準 (案)
551	806	3,100	2,400	900	100